

# 30分早く帰って業績アップ



な会社

退勤定時は5時半なのに30分前には、社員のほとんどがいなくなる。化粧品の開発・販売の「ランクアップ」(東京都中央区)では、3年前から、業務の都合がつけば、5時に帰れるルールを作った。

社員のほとんどが女性。「私だつてなるべく早く帰りたいけど、みんなが働いてると、やっぱり出にくいじゃないですか。なんとかしたいと思つてたんです」と5年前に出産した岩崎裕美子社長はいう。自分が働きやすい職場なら、社員も安心して子育てできると考えた。

きっかけは東日本大震災だった。節電対策で暗がりが増え、夜遅い帰宅は不安。岩崎社長の発案で、9時始業を8時半にして、終業は午後6時から5時に、1時間早めた。

あくまで緊急避難措置だったが、6月に「そろそろ戻そうか」と提案すると、社員から「仕事の質は落とさない。このまま5時終わりを続けてほしい」という声が上がった。

就業規則上は午前8時半〜午後5時半で、給与もそのまま。「決断に

## ランクアップ (化粧品の開発・販売)

2005年に創業。資本金1千万円、従業員41人。売上高は59億円(14年9月期)で、化粧品の開発とネットや電話による通販を展開する。

広報部

向井 亜矢子さん(40)

4歳の子どもがいるので、どうしても残業はできない。ワーキングマザーは誰もが抱えている問題ですが、この会社ではみんなが同じように残業しないので、気がねがありません。子どものいる人といない人で溝を感じることはないのは、とても大きいですね。

社員の  
「ぶちやき」



は勇気がいりました。中小企業がそんなカッコつけて大丈夫かなあつて。業績が落ちたら戻すということに社員にも納得してもらい、実験的に続けてみたくです」と岩崎社長。果たして2011年度の売上高は前年度から約9億円増、顧客数も約6割アップした。

退社時間が決まっていると、そこから逆算して1日の仕事の段取りを考える。「集中して働くことが身についた。頭をフル回転させるので、その状態で深夜まで働くなんて無理だとわかる」とは社員の実感。一方で、業務を見直し、ムダを省いた。社内会議のため手間のかかるパワーポイントで資料を作ることを禁止した。経理は外部化し、事務は社員からアルバイトに切り替えた。社員は、外部の研究者らとともに新製品を企画開発、宣伝や顧客管理などにあたると。月に平均20時間ほどだった残業時間は、いま4時間程度。半数は残業ゼロだ。

同社では社員の約4割がワーキングマザー。病児保育のベビーシッターを法人契約し1日3000円の負担で利用できる補助制度や、2時間から6時間まで、1時間刻みの時間休なども導入している。(樋口大二)

